

園 評 価

保育・教育の基本

評価段階(A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない)

(1)保育と教育の一体的展開	自己評価 A
保育所の保育指針や目標に基づき、発達段階を踏まえ子どもの心身の発達や家庭、及び地域の実態に即した保育課程を編成している。	3歳未満児クラスにおいては、月齢や個人の発達を捉え、個別にねらいを設定して保育を行っている。食事や睡眠など生活の場面では保育士が個々の特徴を把握し、子どもに対して安心感、満足感を与える事を大切に関わっている。 3歳以上のクラスにおいては、各年齢に応じた活動内容に配慮する他、1日の中で異年齢で交流する時間を持ち、子ども同士の関わりで協力しながら遊びを展開できる環境を意識している。
乳児保育のための適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。	
1・2歳児の保育において保育と教育の一体的な展開がされるような適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。	
3歳以上の保育において保育と教育の一体的展開がなされるような適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。	
小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や方法、及び保護者とのかかわりに配慮されている。	
(2)環境をとおして行う保育	自己評価 B
生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことの出来るような人的・物的な環境が整備されている。	保育室、ホールなど子どもたちが生活する場所は清潔に保ち、必要な場所や頻繁に使用する玩具の消毒も行っている。保育教諭は挨拶や身支度など子どもが自らやろうとする気持ちを尊重し関わっている。言葉や表現に繋がる活動を大切に捉え、絵本に家庭でも接する機会が増えるよう、園文庫の貸し出しも行っている。 今後の課題としては、コロナ禍をきっかけに少なくなってしまった地域と関わるような活動をもっと増やしていきたい。
子どもが基本的な生活習慣を身に付け、積極的に身体的な活動ができるような環境が整備されている。	
子どもが主体的に活動し、様々な人間関係や友だちとの協同的な体験ができるように人的・物的環境が整備されている。	
子どもが主体的に身近な自然や社会と関わるような人的・物的環境が整備されている。	
子どもが言葉豊かな言語環境に触れたり、様々な表現活動が自由に体験できるような人的・物的な環境が整備されている。	
(3)職員の資質向上	自己評価 B
保育士が主体的に自己評価に取り組んでいる。 自己評価をもとに、積極的な保育の改善が図られている。	各保育教諭が自己評価に取り組み、園長、主任が個別に助言・指導を行う機会はあるが、自己評価を踏まえ、改善しているのかを評価、確認できるような仕組みがなかった。

子どもの生活と発達

(1)生活と発達の連続性	自己評価 A
子ども一人ひとりを受容し、理解を深めて働きかけや援助が行われている。	職員はこども1人ひとりに目線を合わせて穏やかに話しかけている。障害児保育は行っていないが、発達に不安や悩みなどを持つ家庭とは個別に相談に応じながら、場合により療育センター、児童発達支援施設等と連携をとり対応している。
障がいのある子どもに対し、安心して生活できる保育環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	
長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	
(2)子どもの健康を増進する事にふさわしい生活の場	自己評価 B
子どもの健康管理は、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している。	給食は自園調理で行なっている。献立は札幌市の基準献立を参考に作っているが、彩り、調理方法等子どもたちがより食事を楽しめるように工夫も加えている。健康診断、歯科検診結果は、速やかに各家庭に伝えているが、課題としては、それを保育に反映しきれない部分がある。
食事を楽しむことができるような工夫をしている。	
乳幼児にふさわしい食生活が展開できるよう、食事について、見直しや改善を行っている。	
健康診断・歯科検診の結果について、保護者や保育教諭に伝達し、それを保育に反映させている。	自己評価 A
(3)健康及び安全の実施体制	アレルギー児は、保護者を通じて定期的に医師から指示を受け、ファイルで管理している。又、全職員で個々のアレルギー食材を把握し、栄養士が献立を作成し子どもに提供されるまで確認を徹底している。
アレルギー疾患、慢性疾患をもつ子どもに対し、医師からの指示を得て、適切な対応を行っている。	
調理場、水回りなどの衛生管理が適切に行われ、食中毒などの発生時にすばやく対応できる体制が整備されている。	

保護者に対する支援

(1)家庭との連携	自己評価 B
子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携をとっている。	年度内に2回、クラス懇談と個人懇談の機会を設け保護者との交流、事前にアンケートをとりニーズを把握できるように努めている。家庭と連携をとるよう連絡帳やアプリも活用した伝達も行っているが、その反面、家庭から情報を受けとる部分に関して方法が少ないのが今後の課題でもある。
家庭と子どもの保育が密接に関連した保護者支援を行っている。	
子どもの発達や育児などについて、懇談会等の話し合いの場や保護者との共通の理解を得る為の機会を設けている。	